

## 会議の開催結果について

- 1 会議名 令和元年度第1回上尾市総合教育会議
- 2 会議日時 令和元年7月18日(木)  
午前・午後11時00分から12時00分まで
- 3 開催場所 本庁舎3階 庁議室
- 4 会議の議題 (1) プログラミング教育について  
(2) 教育相談体制について  
(3) 不登校・いじめについて
- 5 公開・非公開の別 原則公開
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴者数 3名
- 8 問い合わせ先 秘書政策課  
(担当課)



## 議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
司会 (市長政策室長)	<p>皆様、こんにちは。            本日は、お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。            只今から、令和元年度第1回上尾市総合教育会議を開会させていただきます。私は本日の司会を務めさせていただきます、市長政策室長の石川と申します。どうぞよろしく願いいたします。            それでは初めに、本会議の設置者であります畠山市長から挨拶を申し上げます。</p> <p style="text-align: center;"><b>市長挨拶</b></p> <p>皆様、こんにちは。教育委員会の皆様には、毎月の教育委員会の定例会の他、勉強会や研修会など積極的になされており、日々、上尾の教育の発展にご尽力を賜り改めて厚く御礼申し上げます。            社会情勢の変化や、急速な技術発展により、教育を取り巻く環境は大きく変化しています。            様々な教育課題に的確に対応するためには、本日のような会議により意見交換をし、課題が明らかになることが、次の施策に向けて非常に有効であると思っています。            今回のテーマは、プログラミング教育、教育相談体制、そして、不登校・いじめについてです。本日もぜひ活発なご意見をお願いします。            今後も、上尾の子どもたちのために、本市教育行政の充実・発展に努め、皆様方とも一層連携を強化していきたいと考えておりますので、ご協力をお願いしまして、開会の挨拶といたします。            よろしく申し上げます。</p>
市長	<p style="text-align: center;"><b>事務局紹介</b></p> <p>ありがとうございました。            本日は、年度が替わりまして、第1回目の会議になりますので、事務局職員の紹介をさせていただきます。            (市長政策室次長兼岡野課長・担当野崎主査・西山主任)            よろしく願い致します。</p> <p>それでは、早速、会議に移らせていただきます。            会議の進行につきましては、上尾市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、畠山市長をお願い致します。</p>
司会 (市長政策室長)	<p>それでは、要綱の定めにより議事を進行させていただきます。            皆様のご協力をお願いいたします。            それでは、次第に従いまして進めて参ります。初めに、本会議の公開について、本会議は「原則公開」となっております。            事務局に確認します。本日、傍聴を希望される方はいますか。</p>
市長	<p>それでは、要綱の定めにより議事を進行させていただきます。            皆様のご協力をお願いいたします。            それでは、次第に従いまして進めて参ります。初めに、本会議の公開について、本会議は「原則公開」となっております。            事務局に確認します。本日、傍聴を希望される方はいますか。</p>

事務局 (市長政策室 次長兼課長)	はい、本日傍聴者3名来ております。
市長	「傍聴あり」ということですので、只今から、傍聴者に入場していただきます。事務局は、傍聴者を入場させてください。
事務局 (市長政策室 次長課長)	はい。
市長	傍聴者の皆さまに傍聴上の注意を申し上げます。 先ほどお配りしました「傍聴に当たっての注意事項」をよくお読みいただき、遵守するようお願いいたします。注意事項に反することがあった場合には、退場していただく場合がありますのでご了承願います。 それでは、 <b>議題の(1)「プログラミング教育について」</b> 説明をお願いします。
教委事務局 (学校教育部長)	<p><b>資料 I-1 プログラミング教育の内容、効果について</b> コンピューターを理解し、上手に活用していく力を身に付けることは、将来どのような職業に子どもたちが就くとしても極めて重要なことでもあります。そのため、小学校では、「プログラミング的思考」を育む、「プログラムの働きやよさ、情報技術によって支えられていることに気付く」などをねらいとして、プログラミング教育を令和2年度より全面実施することになりました。 具体的には、小学校5年算数、6年理科、総合的な学習の時間などで実施する予定です。</p> <p><b>資料 I-2 プログラミング教育の進捗状況、今後について</b> 8月と10月に教諭を対象として、プログラミング教育研修会を実施し、11月までにロボットプログラミング教材を各小学校に8台程度配置します。今年度中に、研修等で教材研究を深め、来年度からの全面実施に備えます。 また、鴨川小学校では、今年度から2年間かけて、国立教育政策研究所の指定を受け、先進的に研究を進めているところであります。</p>
市長	ありがとうございました。 学校教育部長から一通り説明がありました。これにつきまして、意見交換をしたいと思います。何かありますでしょうか。
市長	<p><b>鴨川小学校でのプログラミング教育の先行実施について</b> 上尾市においては、令和元年から先行実施で、令和2年度から全国的に行われるということで、鴨川小学校ではすでに先行的に実施しているということですか。</p>

<p>教委事務局 (学校教育部長)</p>	<p>はい。鴨川小学校は、県の研究指定を受けて、30年度（昨年度）からすでにプログラミング教育に取り組んでいます。</p>
<p>市長</p>	<p><b>プログラミング教育の内容について</b> 学校ではどのようにプログラムの授業が行われているのでしょうか。分かる範囲でお願いします。</p>
<p>教委事務局 (指導課長)</p>	<p>パソコンの中に指示命令を入力し、あるものが、アニメーション的に動くような形で、プログラミングの基礎を学んでいるところです。</p>
<p>教育長</p>	<p><b>鴨川小学校でのプログラミング授業研究について</b> 県プログラミング教育推進事業研究指定校があり、これは埼玉県下全部で8校あります。上尾市としても教育委員会としても手を挙げたところ、県の方で、鴨川小学校を選んでくれました。 上尾市でも予算をいただいて、各学校で今年度行っていきますが、22校の小学校の先生方には、鴨川小学校の授業研究に参加してもらいました。今までやってきたことは、一つは理科、もう一つは家庭科です。理科では、ロボットを使い、キット的なものをセッティングしながら、プログラムを組み、正しく接続していきます。まずロボットを使って、動かしてみようということでした。 もう一つは、家庭科です。5年生の家庭科で、子どもたちの生活において、「寒い冬の過ごし方はどういう過ごし方がいいのだろう？」というテーマで、パソコンを使いながら、子ども達が班ごとに分かれて、気温や湿度を調べながら入力をしていきます。パソコンの中に、「マイコンボード」があり、それを使い、入力すると評価をしてくれます。</p>
<p>教育長</p>	<p><b>プログラミング教育で目指していること</b> このプログラミング教育で目指していることは、「プログラムの思考をどうやって育んだらいいのか」ということです。子どもたちが、科学的な思考や、論理的な思考を育む中で、特に中心になるのは、算数、理科、家庭科が多いです。 これからプログラミング教育がどういう風に進んでいくかは、日本全国でいろんな取り組みがアナウンスされ、試行錯誤しながら進んでいくのかなと思います。 鴨川小学校での実践も、全国を含めて、非常に注目しているところです。ロボットを使いながら授業を行うというのが、一番子ども達も入りやすいというのがあります。 7月3日の毎日新聞に、「プログラミング必修化」というのが出ました。ここに大きく、「町や村、金も人も不足」という記事が出ました。これだとお金がないと出来ないというように思われそうですが、プログラミング的思考を行うには、お金をかけなくてもやれることも実践例でこれから出てくると思います。 全国的に、ロボットを使いながら、プログラムをこういうふうにくむと、物が動くよとか、電気がつくよとか、子どもたちが親しみやす</p>

教育長	<p>いところから入っていきこう、ということです。</p> <p>「コンピューターでプログラムをくむ」というと、プログラマーを育成するよというイメージを持ってしまいますが、そういう教育ではないというのを分かっていたいただきたいと思います。</p>
市長	<p>他に何かございますか。</p>
内田委員	<p><b>プログラミング教育の内容について</b></p> <p>プログラミング教育は、ロボットを動かすとか、パソコンを使って何かを作り上げたり、こんなことができるということを教えていくことがメインなのではないでしょうか。コンピューターで、出来ることの可能性ということでしょうか。</p>
細野教育長職務代理者	<p>おそらく、私はこう思います。「プログラミング的思考」は、例えば、自転車に乗ります。門を出て行くときに左右を確認します。これをプログラミング的思考だと、自転車に乗って止まる、左を見る、人が来ますか、来なかったら右を見る、人が来ますか、来なかったらもう一度左を見る、右をみる、何もなければ進む。という一つ一つがプログラミング的思考だと思います。それをロボットだと、二コマ進みましたか、二コマ進んだら、左へ曲がるということをやっていくのが、プログラミング的思考なので、一つ一つ、エレベーターのボタンを押す、という時に、矢印が上と下にあったら、上に行くときは、どちらの矢印ですか ということを考えて、上のボタンを押すという全てのことが、プログラミング的思考だと思います。もっと生活に根ざしたようなものだという気がします。</p>
内田委員	<p>今は表計算が windows で簡単になっていますが、昔だと表計算に関数を入れていましたよね。そういうのを入れ込んでいくのがプログラミングかなと思ったのですが。</p>
教育長	<p>小学校では、まだそこまで進んでいません。</p>
内田委員	<p>パソコンの中で、色んなことが段階の中で出来るということを教育していくのでしょうか。</p>
小池委員	<p>細野委員さんの話からすると、例えばロボットを動かすために、プログラムとして、どういう指示を与えていけばロボットが動くのか、考えさせる能力を培わせるということでしょうか。</p> <p>例えば、歩くためには、右足を出して左足を出して、ということをしてロボットにさせて動かし、一つの動作をするために、パソコンに指示を与えると動くよとか、細かなことを考えさせる力を付けることを目的としているのでしょうか。</p>

<p>教委事務局 (学校教育部長)</p>	<p><b>プログラミング教育について（文科省資料参考）</b></p> <p>参考までに、今のような質問に対して、文部科学省の資料によりますと、今私たちの周りには、家電や自動車を始め、身の回りの多くのものにコンピューターが使われ、生活を便利に豊かにしています。それはあたかも魔法の箱のようです。一方それは、どのような仕組みで動いているのか分からない、ブラックボックスとも言えます。子どもたちがこれからの社会を生きていくためには、コンピューターをより適切に、効果的に活用していくことが求められます。コンピューターはプログラミングで動いていることを理解する、つまりコンピューターの仕組みの一端を知ることにより、コンピューターはブラックボックスではなくなり、より主体的に活用することに繋がります。という説明です。</p>
<p>教育長</p>	<p><b>プログラミング教育の授業での事例</b></p> <p>例えば小学校の理科で、冬の星座で有名なオリオン座があります。オリオン座が東側の空から出てきて、西に沈みますが、それを勉強する時、今までは、プログラミング教育はどこにも入っていません。今は、オリオン座の動きをプログラミングされたロボットを使い、動かせるようにします。</p> <p>その前に、理科の授業でオリオン座はどう動くのか、オリオン座が東側から出てきて、南の空で天頂しながら、さらに冬の明け方には、オリオン座は西の空に沈んでいきますが、それについて、子どもたちが想定します。実際ロボットを組み立て、想定どおりロボットが動くかということを実際やってみます。</p> <p>内田委員さんがおっしゃったような、いわゆるコンピューターのリテラシーだとかそういうのは、中学校に行き、主に技術家庭科の中の勉強になってきます。</p> <p>実はロボットは色んなものが自動化されているわけです。授業の中に取り入れて、勉強していく程度に考えていただければと思います。ロボットを動かすことが主ではなく、ロボットを使って、勉強の中にも取り入れていくということです。</p>
<p>内田委員</p>	<p>ソフト的には、プログラミングをするというようなソフトをいれるということですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>もう入っています。いわゆるプログラマーのように、プログラムを作るということは、まだ中学生でも難しいですが、小学生はまだそこまでいっていません。</p>
<p>中野委員</p>	<p><b>プログラミングの学習について</b></p> <p>教育長の話の話を聞いていると、仕組みや、ブラックボックスという状況の中を踏み入れて学習していくと、論理的な思考や科学的な思考が育っていくということですね。</p>

<p>教育長</p>	<p>そうですね。ロボット自体が科学的な思考でできていますからね。ロボットを身近な存在として使いながら、プログラミングするということはどういうことか、どうしてこのロボットは、オリオン座の動きを時間通りに動いてくれるのか、最初に子どもたちは予想します。実際にロボットの動かし方を見たら、その通りに動いています。星の勉強の中にも取り入れていこうということです。</p> <p>鴨川小学校の記事が、埼玉新聞で取り上げていただきました。この記事が取り上げられたので、上尾市は、プログラミング教育を教育委員会でも力をいれてやっているのですかと質問がきました。今年もまた引き続き、研究授業を行っていきます。</p>
<p>市長</p>	<p>鴨川小学校でプログラミング教育が取り上げられることがありましたら、声をかけていただき、見させていただければと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>他に何かありますか。では、他にないようでしたら、次にいきたいと思います。</p> <p><b>議題（２）「教育相談体制について」</b>説明をお願いします。</p>
<p>教委事務局 (学校教育部長)</p>	<p><b>資料のⅡ - 1</b>をご覧ください。教育相談体制の取り組みについてです。教育センターへの相談内容は、現在多様化しており、相談内容に合わせた4つの相談体制で、保護者の悩みや不安に寄り添っています。現在、不登校に関する相談が最も多く、昨年度を見ますと、全体の75%を占めております。これに対して、段階的な、スモールステップによる支援を行い、学校復帰を目指して取り組んでおります。</p> <p>一方で引きこもりや、家庭支援が必要なケースの増加により、相談員やスクールソーシャルワーカーの家庭訪問などのアウトリーチ型と呼ばれる支援やニーズが高まっております。</p>
<p>教委事務局 (学校教育部長)</p>	<p><b>資料Ⅱ - 2「教育相談体制の連携」</b>についてです。</p> <p>教育センターでは、学校との連携を密にして、情報共有に努めております。しかしながら、近年解決が困難な相談が増えており、そのため学校でのケース会議を積極的に行い、問題解決に向けて、指導・支援をしております。また、関係機関との連携が必要な相談も増えていることから、児童相談所や、市の子ども若者相談センター等との情報共有を進めております。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>一通り、説明がありました。これにつきまして、意見交換をしたいと思います。何かございますか。</p>
<p>中野委員</p>	<p><b>関係機関との連携について</b></p> <p>教育相談体制の取り組みということで、学校では色んな相談や、子ども自身に課題や何かが見つかった時に、まずは、校内で解決するように、色んなことを取り組んで進めていきますが、やはり次の段階として、どうしたらよいか、学校だけでは解決できない時があります。まずは、上尾市の教育センターにつないで、専門的に教育相談の専</p>



中野委員	<p>門家の方たち、臨床心理士の方や、教育心理士の方もいらっしゃいますので、専門的な力をお借りし、相談に持ち込み、学校と専門機関がつながることが、学校だけでは考えられない新たな方法を導き出すことでも大事です。子どもたちの支援のため、学校にとって一番の最初の頼み口は教育センターかなと思います。</p> <p>相談が非常に多いということで、そこに書いてあるように、実際には、相談対応から学校適応指導教室に入ると決まったら、毎日学校ではなく、学校適応指導教室に通います。子どもによっては、適応指導教室のほか、中学校の場合、さわやか相談室があるので、さわやか相談室に毎日通うことがあります。色々その子に合った方法があります。</p>
大塚委員	<p><b>教育相談の件数について</b></p> <p>教育相談は8,000件近くあるんですね。ものすごい数だなと思いました。そのくらいの数になるんですね。</p>
教育長	<p>繰り返しになりますね。1件が起こると何回も相談を重ねていかなければならないので、年間で全部の件数を加えれば多くなると思います。学校だけでも保護者の方から色んな相談を受けている件数を累積したら、かなりの数になると思います。件数を聞くと多いですが、上尾市全体の児童生徒数からいったら、学校に相談に来る人を丁寧に対応していくと、相談を繰り返しながら一番いい方法を考えているので、件数はかなりの数になっています。</p>
中野委員	<p>申し込んでからすぐに相談ができるという訳ではなくて、待って、相談日時を決めて対応しています。</p>
教育長	<p><b>教育センターとスクールソーシャルワーカーについて</b></p> <p>保護者から相談が来たときは、できるだけ早い時期にお会いして、相談が始まります。子どもの状況や、色んな家庭の状況があります。いじめと不登校が大きく今問題になっていますが、圧倒的に多いのが不登校です。相談で多いのも不登校です。学校と教育センターとが一緒になって解決していきましようという連携の中で、学校から教育センターにまず話がいき、それからセンターでも保護者に連絡します。今、上尾市に3名のスクールソーシャルワーカーがいて、家庭訪問を頻繁に行っていていただき、繋げていきながら相談を行っている状況です。</p>
細野教育長職務 代理者	<p><b>スクールソーシャルワーカーの役割について</b></p> <p>教育長からスクールソーシャルワーカーのお話がありました。市長には、上尾市にスクールソーシャルワーカーを配置していただきまして、ありがとうございます。個人個人が児童生徒に寄り添い、個々の対応は千差万別で異なりますので、スクールソーシャルワーカーの役割や仕事の重要さは大変大きいと思います。</p> <p>中野委員は元、上尾市のソーシャルワーカーをされていたの</p>

細野教育長職務 代理者	<p>で、重要性や大変さを分かれていると思います。個々の対応をとっていただくということで、身体がいくらあっても足りないというのが実情なので、予算が厳しい中、一人でも二人でも増やしていただくと、ありがたいと思います。相談が多い中、スクールソーシャルワーカーの役割は大きいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
市長	<p>中野委員さんは、ソーシャルワーカーをされていたということで、ソーシャルワーカーの必要性についてどういうことを感じますか。</p>
中野委員	<p>家庭を支えるという役割があります。家庭に出向いて、ソーシャルワーカーが教育と福祉をつなぐことがあるので、福祉の方とつながりを持つことも大事です。不登校で家から学校や、学校のスクール相談に出ていけないという時に、家庭に出向きます。話をするところからスタートして、一緒に学校に行ったり、まずは校門のところまで行ってみたり、段階的に行動をするようにします。今度は、教育センターと一緒にいき、ゲームやスポーツをしたりします。その子に合ったペースで進めながら、最終的な目標は何にしようか決めます。簡単に学校に行くことが難しい場合があるので、例えば卒業式に行ってみるとか、来年度から学校にいけばいいかなとか、それぞれ目標を設定します。卒業式には、親御さんと一緒に出られたケースもあり、2年3年は、全く学校に足を運べなかった子が、4年生から学校に行き始め、4年生では3分の2くらい学校へ出席した子もいました。学校でもしっかり体制を作って、ソーシャルワーカーと連携をしていただきました。</p>
市長	<p>何年も学校に行っていないと、学習についていけないことがあります。それぞれの子のケースがありますので、教育相談の専門的な分野の方や、福祉の専門家の方々と連携し、いい方策を見つけて、前進できればいいなと思います。</p>
市長	<p><b>不登校を減らすために</b> 不登校の件数は増えていますね。今の中野委員の意見を聞いて、不登校を減らすために、こうした方がいいなど、何かお考えはありますか。</p>
中野委員	<p><b>不登校を減らすために、きめ細かな支援について</b> 最近思うことは、まずは学校が何をやるかということです。小学校低学年では、特に新学期、朝学校に行きたくない子が、校門のところで泣いている光景が見受けられます。そうした時に、誰が対応してあげられるのか、先生方は自分のクラスの担任として動かなければなりません。養護教諭も朝、子どもたちが保健室に来るので、対応が難しいです。そうすると実際問題としては、そこで対応できるのは、校長と教頭ぐらいであったりします。 きめ細かな支援体制を作るということは、学校で、こういう時は、誰がどういう支援ができるかということをもう一度考えて、一つ一つのケースに、丁寧に対応していくことが大事なのかなと思います。</p>

教育長	<p><b>職員の人員不足について</b></p> <p>小学校では余剰の人がいない状態です。教員の働き方改革を含め、やはり人が足りません。中学校だと、副担任がいるので、副担任の先生が何人か対応できます。それから、さわやか相談員があります。本来だったら、きめ細かく支援するにはどうしてもそれなりの人数が必要です。人が欲しいと言っているだけではだめなので、学校としても組織体制を整えてやらなければいけないと思います。</p>
教育長	<p><b>不登校の人数とフリースクールについて</b></p> <p>平成4年の頃は、上尾は生徒数が多くいましたが、不登校の人数は約5千人くらいでした。その時には、文部科学省の指導方針というのは、「学校復帰を前提」とすることで、教育相談を進めるということでした。</p> <p>現在一番新しい数値は、平成29年度のものですが、平成29年度が去年の10月に発表され、全国での不登校の人数は、約20万人です。その中で、2019年に文部科学省が方針を変えました。「多様な学習環境の場として、色んな多様な学習環境を積極的に容認していく」ということを出しました。一気に、フリースクールが増え、上尾にもフリースクールが1校できました。去年の10月の段階で、市内中学生8人が、フリースクールに通っています。フリースクールに通った場合、これを出席として、捉えてよいことになっております。</p>
教育長	<p><b>高校入試について</b></p> <p>埼玉県教育委員会では、県立高校の入試において、中学校の校長が、高等学校の校長の方に出向いて相談をした結果、学校に行っていないと試験を受けていなく数値がでませんが、それを合否の判定に使わないで面接をしてくれて構いませんということがありました。</p> <p>不登校の子の中には、学力的に大変な子もいますが、優秀な子もいます。精神的に敏感な子で、今のクラスの中で、どうしても溶け込めない、けれど、勉強はよくできるお子さんについては、受けようとしている県公立高校では、埼玉県教育委員会が行う学力検査で、合格者と同じくらいの成績をとっているのであれば、何も心配しないで結構ですと言ってくさっています。合格して、高校生になって1日も休まないで行っている子も結構います。</p>
教育長	<p><b>市の不登校の状況について</b></p> <p>国をあげて、色んな形で取り組んでくださっているのも事実です。これだけの人数になっているのは、色んな理由があるわけで、不登校を増やさないと、今いる不登校をいかに一人でも多く、復帰させるかということの2つを今校長先生方をお願いしています。年度終わりの数値をみますと、どんどん増えているように見えるのですが、実際には上尾市の場合、もう少し改善すればいいのですが、ほぼ横ばいです。復帰に人数が出てきていて、学校と教育センターが連携をしているので、数値が出てきているのが実態です。これからも努力をゆるめないで頑張ってくださいたいです。</p>

内田委員	<p><b>スクールソーシャルワーカーの人数について</b></p> <p>中野先生がスクールソーシャルワーカーということで、3名での活動は足りていたのでしょうか。</p>
中野委員 教育長 市長	<p>とても足りていません。</p> <p>国は入れると言っていますが、現状は足りていません。</p> <p>不登校になる原因が家庭にあるのか学校にあるのか、いつ不登校になるのか、状況は様々です。その子に寄り添い話をし、導いてあげることが大事だと思います。</p>
中野委員 教育長	<p>多種多様化、複雑化しており、ケースが様々ですよ。</p> <p><b>中学校への情報提供について</b></p> <p>今、上尾市の学校に連携してお願いしているのは、4年・5年・6年生については、細かく情報を中学校にあげてもらっています。単に休んでいるだけではなく、出欠席の状況、遅刻、早退や学校での様子など、小学校の先生方が細かく見てください。中学にあがった時に、急に不登校になる場合もあります。今22校の小学校の校長先生が、11校の中学校の校長先生に情報をあげ、この3年間程取り組んでいます。情報をいただいているので、中学校では、少し休む子がいる時は、十分丁寧に気を付けて対応するようやり取りしてくれています。小学校の時に何か休むきっかけがあった時は、注意して中学校ではみえています。中学校で色々トラブルがあり、不登校になってしまう子もいます。様々です。</p>
中野委員 細野教育長職務 代理者	<p>小学校と中学校との連携の成果はあがっていると思います。</p> <p><b>不登校の要因として</b></p> <p>私も最近不登校ということに対して、何で不登校になるのかなといった時に、子どもたちが学校に行った時に居場所がない、学校に行った時の絆が全くない、その元は何かとすると、おそらく「自分が生きていて誰かに必要とされる」とか、「自分が役に立つ」とか、自己有用感とか、自己肯定感とか、そういうことが日本全体で、日本人として何だか薄れてきている気がします。ですから、一気に不登校数が20万という数になってしまったのではないかと思います。朝学校に行ったときに、門まで行って、中に入れなくても誰も声をかけてくれない、それで帰ってしまう、それはもう居場所がないんですよ。絆がないとか。それを改善するため、コミュニティスクールや、地区で子どもを育てるとか、今盛んにいろんなところで言っていると思います。それを今、大人が一生懸命考えています。「いつからです」というのは答えがありません。こういう議論をいろんなところでして、少しずつだけやらないといけないと思います。</p>

市長	居場所がない、絆がない、それをどこかに作ってやらないといけませんですね。
細野委員	そうですね。
中野委員	その通りだと思います。友達で声かける人、先生で声かける人、みんな忙しかつたりします。それも一つの理由かなと思います。そうすると、きめ細かな支援体制をケースごとに作っていくといっても、先生方に時間がない。中学校では授業が終わった後に、部活があります。1週間に1回、不登校の子に先生が会いに来てくれて、ちょっと会話をして、何かクラスの状況を伝えてもらうだけでも違います。友達が声をかけたり、忙しいと思いますが、先生が声をかけたり、きめ細かい体制をつくっていくことが大事です。
内田委員	子どもって3日間くらい休むと学校に行くことを躊躇したり、行けなくなってしまうことがあります。親が不登校になってから、あたふたするというのが現実だと思います。何かあった時に、先生にすぐ相談できるとか、そういうことを保護者の方にも訴えていかないと、どんどん広がってしまうかなと思います。
市長	すぐに対応できるように危機感をもって接していかないとですね。
市長	時間になりましたので、また次の機会に 今話した続きもしたいと思います。
市長	<b>議題（４）その他</b> にうつります。何かございますでしょうか。
事務局 (市長政策室 次長兼課長)	次回の総合教育会議の予定ですが、年内の定例教育委員会の会議に併せて、10月か、11月頃、開催したいと考えております。また、時期が近くなりましたら、ご連絡申し上げたいと思いますので、よろしくをお願いします。
市長	事務局からありましたが、何かありましたらお願いします。 特にないようでございますので、これで議事はすべて終了いたします。皆様のご協力ありがとうございました。 大変有意義な会議であったと思います。今年度は3回の会議を予定しています。上尾の子ども達のために、今後も行政と教育委員会とがより一層連携を深めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。それでは、進行を事務局にお返しします。
司会 (市長政策室長)	それでは、教育委員会を代表いたしまして、池野教育長から閉会のご挨拶をお願い致します。

<p>教育長</p>          <p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>今日は大変有意義な時間を設定していただきまして、ありがとうございました。教育問題に関するこうした会議なので、特効薬はなかなか見つからないと思いますが、にいろいろな形で話を聞いていただく機会は大事です。今回のテーマの続きはまた次回でということで、楽しみにしております。本日はありがとうございました。</p> <p>皆様、お疲れ様でした。以上で令和元年度第1回上尾市総合教育会議を閉会いたします。</p>
--	---